

神経内科は脳神経内科になります

このたび、日本神経学会が「神経内科」の診療科名を「脳神経内科」に変更することを決定しました。

それに伴い、当院の併設クリニックである神経内科津田沼、神経内科千葉も、本年10月1日から「脳神経内科津田沼」「脳神経内科千葉」と名称を変更するになりました。

名前を変更する理由としては、「神経内科」の診療内容をよりよく一般の方々に理解していただくことにあります。

「神経内科」は、主に脳や脊髄、末梢神経の疾患を診る診療科ですが、「神経内科」という言葉は、心療内科や精神科と混同されることがある一方、脳卒中や認知症などの疾患を専門的に診療する科であることが、いまだに広く知られていません。

そこで、「脳」を付けることで脳、脊髄、末梢神経、筋疾患を扱う診療科として、一般の方により広く認識してもらうことが目的です。



～ 最善の行動と信頼 ～

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・歯科（要予約）
- 院長
小松 尚也
- 外来診療時間
平日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）
土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
- 休診日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL: 047-466-2176 FAX: 047-466-7503
ホームページ: <http://www.chiba-hpon.arenane.jp>
- 千葉県認知症疾患医療センター
TEL: 047-496-2255 FAX: 047-496-2256



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護は保護されます。

発行: 医療法人同和会 千葉病院
発行日: 平成30年7月15日
住所: 千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL 047-466-2176 Fax 047-466-7503
URL: <http://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/>

編集後記
例年、5月に「初夏号」、7月に「盛夏号」を発行しておりますが、今年度は両号をまとめて「夏号」として発行することになりました。
今号では、千葉病院夏の大イベント『盆踊り』のご案内をさせていただきました。日程上、まだまだ残暑というには早い時期に行いますが、皆様のご参加をお待ちしております。

ういんぐ

=WING=

千葉病院広報紙 2018. 夏号（第61号） 発行者 医療法人同和会 千葉病院

今年も開催 盆おどり



千葉病院では毎年、8月の水曜日に盆おどりを行っています。入院されている患者さんに楽しんでいただくのはもちろんですが、地域の方々にも参加して喜んでいただけるようにかき氷や焼きそばなどの模擬店や、太鼓の演奏、やぐらを囲んでの踊りなども予定しています。

是非、ご家族やお知り合いをお誘い合わせのうえお越し下さい。職員一同心よりお待ちしております。

日時: 8月8日(水) 18:00～

会場: 同和会千葉病院 お祭り広場



こんにちは、訪問看護です♪

当院では、患者様が地域で安心して日常生活を送れますよう、訪問看護・指導を行っております。訪問に伺わせて頂くスタッフは、看護師もしくは精神保健福祉士となります。

当院では担当制を取らせて頂き、一人ひとりの患者様や家族の方と向き合い、一緒に悩み考え、その方らしく生活できますよう、お手伝いさせて頂いております。

どんなことをしてくれるの？

<健康状態の観察>

心身の状態を観察し、病状の悪化を防ぎ、再発を予防するためのお手伝いをします。

<服薬管理>

服用方法や副作用に関する相談、助言を行います。

<日常生活の支援>

日常生活(食事、睡眠、身だしなみ、金銭管理、余暇の過ごし方など)に関する相談や援助、社会資源(行政サービス、公共施設、福祉施設など)の利用等の支援を行います。

<訪問時間と頻度>

1回の訪問看護所要時間は30分から1時間程度を目安にしております。頻度は患者様の状態に応じて対応させて頂いております。

利用するには？

訪問看護・指導を利用するには主治医の指示が必要になります。利用を希望される方は主治医または地域生活支援室までご相談ください。*また、遠方にお住まいの方には、ご希望により近隣の訪問看護を紹介させて頂く事も出来ます。



地域支援・訪問看護相談室は、正面玄関を入りすぐ右手になります。お気軽にお声掛け下さい。お待ちしております。



不眠について その1

千葉病院医師 安川 明香

普段の診療の中で、「眠れない」と訴える患者さんはとても多く感じます。一口に「眠れない」といっても、寝つきが悪い(入眠困難)、途中で目が覚めてしまう(中途覚醒)、朝早くに目が覚めてしまう(早朝覚醒)、睡眠時間は十分にとれているのにぐっすり寝た感じがしない(熟眠感不全)といったタイプがあります。

他にも睡眠の障害としては、悪夢や睡眠中の行動異常(足がムズムズする、突然大声をあげるなど)、過眠(夜間に十分な睡眠時間をとっているにも関わらず日中眠くなるなど)を訴える方もいらっしゃいますが、今回から3回シリーズでは、睡眠障害としてではなく、“不眠”に焦点を当ててお話ししたいと思います。

不眠の原因にはさまざまなものがあげられますが、精神科診療では不眠の背景に精神疾患がないかをまず見極めます。うつ病では早朝覚醒が多く、躁病では睡眠時間の短縮が多く、他に統合失調症、不安障害、認知症では様々なタイプの不眠が認められることが知られています。問診により不眠をもたらす精神疾患が認められる場合は、その原因疾患の治療をまず行っていきます。

他に不眠の原因として、薬原性(ステロイドの長期服用など)、身体疾患によるもの(慢性閉塞性肺疾患、頻尿など)などがあげられますが、いくら不眠に対して原因疾患の治療を行ったり睡眠薬の処方を行ったりしても改善しないケースも少なくなく、よくよく話をうかがうと、実は睡眠環境が悪かったというケースが多いのも事実です。

例えば、布団に入ってからしばらくスマホを触っている・眠くなるまでテレビを見ているなど光に関係すること、夕方以降のカフェイン摂取(ちなみに緑茶を始めカフェインが含まれる飲み物があふれています)、騒音(隣で寝ている人のいびきも含まれます)、寝室の不適切な室温(風通しも関係します)がよくあるケースです。

これらは無意識のうちに行っていることが多く、丁寧に問診を繰り返してもなかなか聞き出せずに治療が難航することもあります。またすでに習慣となっていることをやめるのはかえってストレスになって不眠の原因となってしまうこともあります。

次号からは、「精神疾患が背景にはない不眠」について、もう少しお話ししていきたいと思います。

千葉病院ホームページ リニューアル第3弾

千葉病院のホームページに、新たに「臨床検査」の項目が新たに追加されました。当院で行うことが可能な検査などを紹介しています。是非、一度ご覧ください。

